

4 研究のまとめ

(1) 研究の考察

考察の視点

視点Ⅰ…児童生徒は多面的・多角的に価値を捉え直していたか。

視点Ⅱ…児童生徒は自己のこれまでの価値理解を修正したり、強化したりできていたか。

ア 視点Ⅰについて

「児童生徒は多面的・多角的に価値を捉え直していたか」について、授業での児童の取組の様子及びワークシートの記述を基に見取りました。対象児童が小学2年生と中学2年生ということで、発達の段階の差が大きいため、考察のポイントを小学校と中学校でそれぞれ以下のように設定しました。

(ア) 小学2年生の実践における分析

授業での児童の取組の様子の分析及びワークシートの記述分析

- ①他者との対話や交流において、他者と考えを交流することに有用性を感じているか。
- ②道徳的価値のよさについて、場面や条件などを基に一つ一つ考えることができたか。

(イ) 中学2年生の実践における分析

授業での「ワークシート」、「事後アンケート」、「心の学び記録」の記述分析

道徳上の問題について多面的・多角的に考察し、自己の考えを広げ、深めた記述をしているか。

(ア) 小学 2 年生の分析

「①他者との対話や交流において、他者と考えを交流することに有用性を感じているか」について、事後のアンケートを使って分析しました。

「事後アンケート」の中で、「勉強で考えるときに役に立ったもの（複数回答可）」について複数の選択肢から選ばせました。その中で「友達の意見」を選んだ児童の割合を比較しました(表 1)。また、学習の感想として「新しい発見があったか」について 4 件法で選ばせました。「とてもあった」を 4 点、「まあまああった」を 3 点、「あまりなかった」を 2 点、「全くなかった」を 1 点として学級の平均を算出しました。

表 1 「友達の意見」への有用性の割合と「新しい発見」の満足度

授業実践	【内容】 「教材名」	対話の 手立て	主な可視化 の手立て	「友達の意見」を 選んだ児童の割合	「新しい発見」 についての児童 の満足度の平均
① (九月実施)	A-4【個性の伸長】 「ありがとう りょう うたさん」	ペア 対話	付箋紙	77% (26 人中 20 人)	3. 0 0
② (九月実施)	A-5【勇気と希望】 「さかあがり でき たよ」	ペア 対話	黒板	62% (26 人中 16 人)	2. 6 5
③ (九月実施)	D-20【自然愛護】 「迷子になった赤ち ゃんクジラ」	役割 演技	ワーク シート	85% (26 人中 22 人)	3. 3 5

分析を行ったところ、「勉強で考えるときに役に立ったもの」として「友達の意見」を挙げる児童が毎時間半数以上いました。「教科書」や「付箋紙」「先生の質問」など 7～9 個の選択肢の中で、「友達の意見」を選ぶ児童が毎回一番多くいました。このことから、児童は「友達の意見」に有用性を感じていることが分かります。

また、授業の中で「友達の意見」に有用性を感じた児童は、授業の中で「新しい発見」があったと感じる傾向がありました。授業実践①では「友達の意見」に有用性を感じていた児童は 77%で、「新しい発見」への満足度は 3.00 でした。授業実践②では「友達の意見」に有用性を感じた児童は 62%と低くなり、「新しい発見」への満足度も 2.65 と低くなりました。授業実践③では、「友達の意見」に有用性を感じた児童は 85%と高くなり、「新しい発見」への満足度も 3.35 と高くなりました。このことから、低学年においては、児童が「友達の意見」に有用性を感じるほど、児童は「新しい発見」を感じる事がうかがえました。

「②道徳的価値のよさについて、場面や条件などを基に一つ一つ考えることができたか」についてワークシートの分析を行いました。特に、授業実践②③で、価値に対する自分の感じ方をハートや円の大きさと表現する活動に取り組みせました。その人数の変化について分析しました（表 2）。

表 2 ワークシートに記した『価値に対する自分の感じ方』の変化の人数

授業実践	比べ方	分類	交流前の人数	交流後の人数
② (九月実施)	「逆上がりができるようになる喜び」と「じゃんけんで勝つ喜び」の大きさをハートの大きさと比べる。友達との交流後に、もう一度自分の気持ちをハートの大きさと表して比べさせる。	逆上がりの喜びの方が大きい	17 人	22 人
		同じ大きさ	6 人	3 人
		逆上がりの喜びの方が小さい	3 人	1 人
③ (九月実施)	「生き物を大切に思う気持ち」と「生き物を大切にしないと思う気持ち」の両方を丸の大きさと表して比べさせる。役割演技後に、もう一度気持ちの大きさをそれぞれ丸の大きさと表して比べさせる。	交流後に「生き物を大切に思う気持ち」が大きくなっている	21 人	
		交流後に「生き物を大切にしないと思う気持ち」が小さくなっている	22 人	

どちらの検証授業においても、児童は、価値に対する自分の感じ方をハートや円の大きさと表現していました。

授業実践②の内容項目は「勇気と希望」で、「逆上がりができるようになる喜び」について、児童に考えさせました。全員が逆上がりができるようになりたいと思う一方で、できた時の喜びを「じゃんけんで勝つ喜び」と同じと感じていたり、それよりも小さいと感じていたりする児童が 34% (9 人) いました。しかし、対話後は「逆上がりができるようになる喜び」の方が大きいと感じる児童が多くなっています。変わらない児童も 15% (4 人) いましたが、85% (22 人) の児童が喜びの大きさについて、逆上がりのできた時の喜びの方が大きいと考えることができました。

授業実践③の内容項目は「自然愛護」で、「生き物を大切に思う気持ち」と「生き物を大切にしないと思う気持ち」を分けて、それぞれの視点で考えさせました。生き物を好きか嫌いかの二択ではなく、どちらの気持ちもあるものとして考えさせました。どちらも、自分の思う大きさと生き物に対する思いを表現することができました。また、対話前と対話後とを分析すると、「生き物を大切に思う気持ち」がより大きくなった児童が 81% (21 人) で、「生き物を大切にしないと思う気持ち」がますます小さくなった児童が 85% (22 人) いました。

以上のことから、児童は喜びの大きさを別の喜びの大きさと比べたり、一つの価値に対して二つの視点から考えたりしており、多面的・多角的に価値について捉え直していることがうかがえました。

(イ) 中学 2 年生の分析

①ワークシートによる分析

「道徳上の問題について多面的・多角的に考察し、自己の考えを広げ、深めた記述をしているか。」
 についてワークシートでは以下のように分析していきました。

合唱コンクール		2年	組	号	名前
①	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	理由		
リーダー		フォロワー			
②	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	理由		○…同じ △…にている □…なるほど 交流した人の名前: 記号 ① ② ③

リーダーの成長とフォロワーの成長を授業のはじめと授業の終わりに分けて、自分の考えをスケーリングする。

資料 1 授業で使用したワークシートの一部

まず、授業ではリーダーとフォロワーといった役割を通じた成長について資料 1 の上段で考えました。その後、教材文を読み進めていき、資料 1 の下段で考えの変化を見ました。

①	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	理由	②	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	理由	○…同じ △…にている □…なるほど 交流した人の名前: 記号 ① ② ③
リーダー		フォロワー	リーダーは自分が成長できると思うから。 フォロワーは周りの成長を応援しているから。				リーダーは成長を見ることができてよかった。 フォロワーは自分も力になりたいと思って頑張るので、その分前向きなため、成長できると思う。 フォロワーは自分も力になりたいと思って頑張るので、その分前向きなため、成長できると思う。また、足りない部分は補い合うことができる」と記述していました。	

資料 2 生徒 E のワークシート

資料 2 を見ると生徒 E は、授業の始めには「リーダー 5、フォロワー 4 リーダーに任せる部分が出てくると思うから。リーダーより周りのことに気をつかわなくてよいから」と書いていました。しかし、教材文を読み進めていき、話し合いを行った結果、授業の後半では、「リーダー 9、フォロワー 10 リーダーの姿を見て、成長できると思う。フォロワーは自分も力になりたいと思って頑張るので、その分前向きなため、成長できると思う。また、足りない部分は補い合うことができる」と記述していました。登場人物の気持ちになって多面的・多角的に価値を捉え直し、授業当初の考えが変わっていったと考えられます。

「9」のところに線を引いている。

①	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	理由	②	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	理由	○…同じ △…にている □…なるほど 交流した人の名前: 記号 ① ② ③
リーダー		フォロワー	リーダーを支えたりする事ができなかったから。				私は前よりも、大きな声で歌えたりと最初のがんばりがなかったから。 小里君は、最初からがんばっていて、口ずかかせてくれたので 10。	

資料 3 生徒 F のワークシート

前頁資料 3は生徒Fの記述です。生徒Fは、授業の始めに「リーダー5、フォロワー3（フォロワーは）リーダーを支えたりする事しかできなかったから」と書いていました。しかし、教材を読み進めていき、話し合いを行った結果、授業の後半では、「リーダー10、フォロワー9 僕（フォロワー）は前よりも、大きな声で歌えたけど、最初の頑張りがなかったので9。小野君（リーダー）は最初から頑張っていて、呼び掛けていたので10」と記述していました。この生徒も登場人物の気持ちになって多面的・多角的に価値を捉え直し、授業当初の考えから意見が変わっていきました。

このような考えの変化を一人一人にもたせた上で、授業では自由交流を行っていきました。視覚的に場面をイメージすることができるように挿絵や図を黒板に貼り、生徒に登場人物の気持ちになって考えさせた結果、自由交流の中では、スケーリングにおける得点の多少の違いはあったものの、全ての生徒が元の得点よりも大きい数値を記述していました。そのスケーリングの数値を基に、自由交流で互いに数値を比べたり、意見を交換したりした結果、リーダーとフォロワーともに成長ができるということを話していました。そして、交流後に教師が交流の内容をフィードバックした上で、「役割ももちろん大切だと思いますが、それ以上に大切なものは何だろう」という発問をし、話し合いを行わせました。生徒たちからは「役割ももちろん大切だけれども、それ以上に（役割に向かう）やる気が大切ではないか」や「クラスのために協力しようという気持ちが必要ではないか」という意見が出されました。

このように、スケーリングや自由交流の手立てにより、互いの意見の共通点と相違点に生徒が気付くことができました。さらに、教師の意図的な発問により、生徒が多面的・多角的に考え、総合的に考察するきっかけとなりました。その後のワークシートの記述は下記のとおりです。

・今日の学習で、集団の中での役割と成長について学びました。はじめはリーダーも、フォロワーも同じように同じくらい成長すると考えていましたが、「合唱コンクール」の文を読んだり、友達と話し合ったりする中で、考えが変わり、リーダーよりもフォロワーの方が、しなければならないという義務感がない分、一生懸命に頑張ろうとすれば、もっと成長できるのではと思いました。また、よく考えたら、人が成長するのに必要なことは役割ではないということに気付きました。なので、みんなが頑張ってみんなが成長してく、そんなクラスになりたいと思いました。

資料 4 生徒Gのワークシート

・今日の学習（合唱コンクール）で学んだ事は「リーダー、フォロワー関係なく成長はできる」という事です。最初は、「フォロワーより、リーダーの方が、成長できる」と考えていました。でも学習していく中で、「リーダーもフォロワーも、やる気があれば成長できるんだ」と思いました。「リーダーやフォロワーなどの役割以上に大切なことがあるのだな」と思いました。これからはこのクラスもこんな風にみんな協力して、みんな成長していけるクラスにしていきたいと強く思いました。

資料 5 生徒Hのワークシート

資料 4と**資料 5**内の下線部は意見の変容が見取れる箇所です。下線部を見ると、道徳的な価値について多面的・多角的に考察し、自己の考えを広げ、深めた結果、クラスを今後どのようにしていきたいということについて主体的に記述しており、生徒Gと生徒Hは「役割と責任、そして成長」について考えを深めていることがうかがえます。また、その他にも95%の生徒が同様にクラスを今後どのようにしていきたいかということについて具体的に記述しており、自己の考えを広げ、深めることができたと考えられます。

②事後アンケートによる分析

「道徳上の問題について多面的・多角的に考察し、自己の考えを広げ、深めた記述をしている」については、事後アンケートにおいて以下のように分析しました。

事後アンケートの1つとして、道徳科の時間で自分の意見を可視化して、友達と話し合う活動を行っていくことで新たな発見や納得できる答えにつなげることができたかということについて問いました。

アンケートの質問内容

道徳科の時間で、スケーリングなどの自分の考えを見える形にして、友達と話し合うことで、自分の考えが変わったり、初めに考えていたことについて「やっぱり自分の思った通りだった」と確信をもったりしたことについて書いてください。

- ・自分の意見とはちがう人もいたけど、その人の意見に納得することもあったので、人の意見を聞くことも大切だと思いました。
- ・友達の意見をしっかりと聞くことで、いろんな考えを学ぶことができた。これからの自分に役に立つと思えた。
- ・自分にとって「これがあたりまえ」と思っていたでもまわりとは違う意見になっていたりして、考えを改めることができ、一人一人にとって、「あたりまえ」は違うと分かった。
- ・友達と話し合うことで、より意見が深まったりして、自分の思っていることだけでなく、思っていること以上に想像をふくらますことができたのでよかったです。自分と同じ考えの人や違う意見の人がいっぱいいて、とてもいい学習になりました。
- ・自分だけの考えに頼らず他の人の意見を聞くと納得する点があった。他の授業でも分からないところを聞くところを聞き合えたので、班活動は大切だと思った。
- ・友達の意見がとても役に立った。今後の自分の役に立つと思った。自分が持っていない良い意見をたくさん取り入れて新たな発見ができた。
- ・自分の意見と同じ人がたくさんいれはうれしい気持ちがある分、全然違う意見の人がいると、「そんな考えもあるのか!」と考えが広がり、楽しかった。
- ・自分が考えてもいなかったことを、他の人が書いていて、別の視点からのもの見方も知ることができたし、自分と同じ意見でも、理由が少し違ったりして、そのような人達の意見も良いなと思えたのが良かったと思う。
- ・友達の意見で自分の考えが変わったことがあった。
- ・自分の考え方と友達の考え方がちがう。理由を聞いてみると友達の考え方に納得することがあった。
- ・みんなの意見が一緒だったり、意見が違ったりしても、その人の意見に納得できることがあった。
- ・自分の考えが変わったりした時は、この人の意見にすごいなと思ったから、変わったと思います。自分の考えがすべて正しいというわけではないということを知ることができるのが道徳だったと思います。
- ・意見交換をすることで、自分には見つけることができない新しい発想を教えてくれ、次第に班、クラス、学校でお互いを高め合うことができるコミュニケーションはすごく大切なことだが、そのためには自分がしっかりと考えなければいけない。

資料6 手立ての有用性について記述した生徒のアンケート

資料6内の下線部は総合的に考察することの大切さを記述した箇所です。下線部を見ると、道徳科の時間で自分の意見を可視化して、友達と話し合う活動を行っていくことで新たな発見や納得できる答えにつなげることができると回答しており、生徒自身が手立ての有用性を感じていると考えられま

す。また、話し合いによって自分の意見が変わった生徒がいました。意図的な交流活動によって、様々な角度から総合的に考察することの大切さに気付かせることができました。

③ 「心の学び記録」による分析

「道徳上の問題について多面的・多角的に考察し、自己の考えを広げ、深めた記述をしている」について「心の学び記録」では以下のように分析しました。

中学校では、「平成 29 年度個別実践研究(小・中道徳科)」で行った「心の学び記録」を 4 月に初めの考えとして、11 月に授業後の意見として生徒に書かせました。「多面的・多角的に価値を捉え直したか」について、「心の学び記録」では授業でねらいとする内容項目の質問において、以下のような回答が得られました(図 1)。

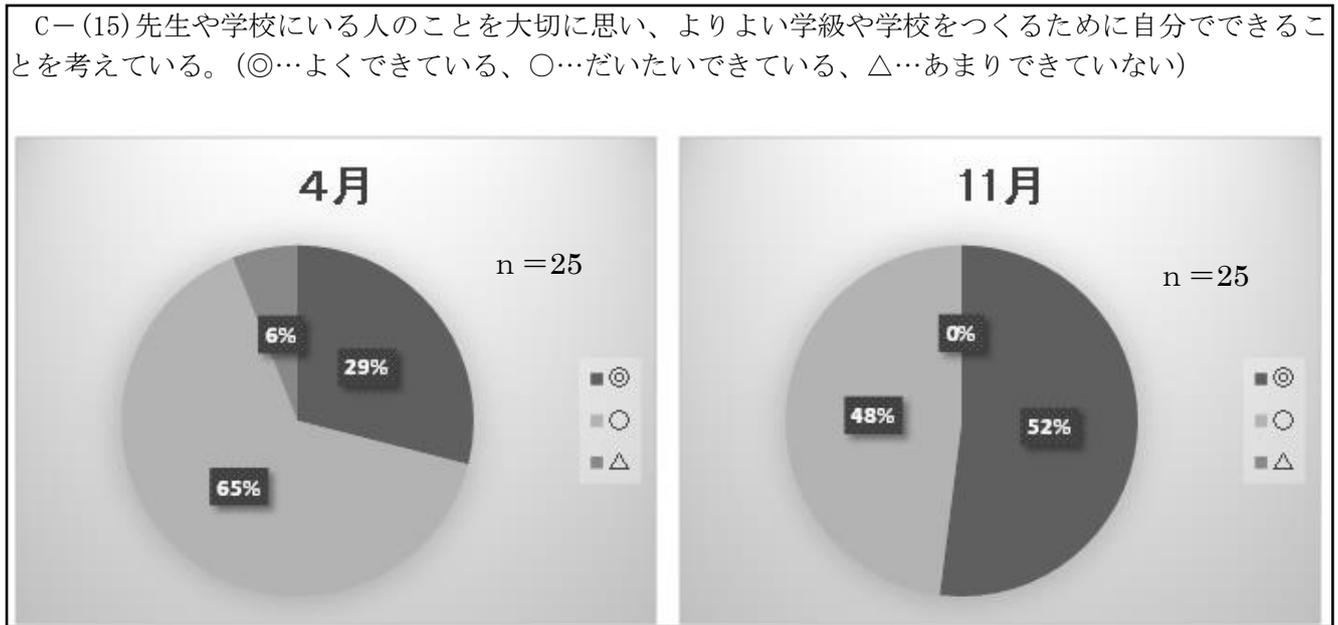


図 1 心の学び記録

さらに、4 月に取った「心の学び記録」の記述と 11 月に取った「心の学び記録」の記述を一部抜粋したものが表 3 です。

表 3 心の学び記録 生徒記述

	記号 (4月)	理由(4月時)	記号 (11月)	理由(11月時)
生徒 I	○	学校生活を楽しく過ごすため。	◎	みんなが過ごしやすいように、自分からたくさんの人と話すようにしている。
生徒 J	△	学校を楽しくしたいから	◎	「周りの人のために」、自分ができることを積極的にできていると思う。
生徒 K	△	よく分かりません。	○	委員会などで、委員長に案を出したりできているから。
生徒 L	○	だめなところをみとめあえるようにしているから。	◎	掃除の前やうるさいときに本当は恥ずかしくしなきゃいけないので注意している。
生徒 M	○	学校の役に立ちたいから。	◎	自慢の学校にしたいから。

前頁表 3 のように、学校生活の具体的な場面や自分の思いなど、より具体的な判断の根拠があり道徳的価値に照らして自己を肯定的に捉えている生徒が増えていました。「心の学び記録」の記述より、生徒が 4 月から道徳科の授業を経て 11 月までの一定の期間で道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から多面的・多角的に捉え、考えられるようになったことがうかがえます。

イ 視点Ⅱについて

「児童生徒は自己のこれまでの価値理解を修正したり、強化したりすることができていたか」について、「ワークシート」に見られる児童の意識の変化の分析や「事後アンケート」の記述分析を行いました。小・中学校において次のように分けて分析しました。

(ア) 小学 2 年生の分析
「事前・事後アンケート」「ワークシート」の記述分析のポイント ①「ワークシート」において、学んだ価値について根拠のある自分の考えを示しているか。 ②「事後アンケート」における児童の意識調査において、回答の理由を明確に示しているか。
(イ) 中学 2 年生の分析
「ワークシート」の記述分析のポイント ①道徳上の問題について、これまでの自己と照らしての判断とその基になる根拠を考え、記述している。 「事前・事後アンケート」の記述分析のポイント ②主題に係る自己の（人間としての）生き方を振り返り、今後の生活に生かせる記述をしている。

(ア) 小学 2 年生の分析

「①『ワークシート』において、学んだ価値について根拠のある自分の考えを示しているか」について分析しました(表 4、次頁表 5)。

表 4 「いいところ見つけ」をして気付いたこと (授業実践①)

n = 26

授業実践	ワークシートで尋ねた内容	自己のよさの再発見への記述	学級のよさの再発見	友達のよさの記述・感想	無回答
① (九月実施)	「いいところ見つけ」をして、どんなことに気付きましたか。	46% (12 人)	23% (6 人)	27% (7 人)	4% (1 人)

授業実践①の中で友達の「いいところ見つけ」をして、友達の名前を書いた付箋紙を黒板に分類して貼っていく活動に取り組んだあとに、その活動でどのようなことを思ったり感じたりしたかを尋ねました。児童の記述は、主に上記のような 4 つに分類されました。無回答は 1 人で、残りは全員が自分の思ったことを記述できていました。その中で 18 人(69%)が「友達がぼくの思っ
てなかったところを言ってくれてうれしかった」などの自己のよさや「いっぱいみんなにいいところがあった。友達をたくさんつくろうって思った」などの学級のよさを再確認する記述が見られました。

表 5 「気持ちの大きさをそのようにした」理由の分析（授業実践③） n = 26

授業実践	ワークシートで尋ねた内容	①生き物のいのちや人間との関係性について述べている	②①以外の理由を書いている	③理由なし
③ (九月実施)	生き物を大事だと思う気持ちとそうじゃない気持ちをどうしてそのようにしたのですか。	50% (13人)	38% (10人)	12% (3人)

授業実践③では、「生き物を大切と思う気持ち」と「生き物を大切じゃないと思う気持ち」の両方の気持ちの大きさの変化についてそのように感じた理由を記述させました(表5)。理由を書けない児童が12%(3人)いましたが、88%(23人)が自分なりの理由を記述していました。また、50%(13人)の児童が「生き物のいのち」「人間との関係性」などの側面から自分の価値意識を捉えることができていました。

「②『事後アンケート』における児童の意識調査において、回答の理由を明確に示しているか」について分析しました。授業実践③の事後アンケートにおいて、役割演技のよさについて、児童がどのような意見を述べているか見取りました(表6)。

表 6 「役割演技をしてよかったこと」理由の分析（授業実践③）

授業実践	尋ねた内容	考えたり、感じたりしたこと の記述	活動についての記述	無回答	
③ (九月実施)	役割演技をして、よかったなと思うことを書いて下さい。	人数	42% (11人)	58% (15人)	0人
		記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・おかあさんのおもいをかんがえたら、いのちがとてもたいせつだとおもった。 ・にんげんのいのちと生きもののいのちは同じだから、たいせつにしていきたいとおもった。 ・クジラもにんげんと同じようにかんがえるとおもった。 ・これから生きものをすてずに、かったらたいせつにしたいとおもった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おかあさんにあえてよかったということ ・見つかってよかった。 ・まいごになった赤ちゃんクジラをたすけられたこと ・赤ちゃんクジラがおかあさんのところにもどれてよかった。 	

「役割演技をしたことでよかったこと」と問われて、全員が自分の考えを記述することができました。そのうち11人の児童が、役割演技を通して価値意識の深まりが見られる記述をしていました。「人間と同じ」という言葉や「これから」、「お母さんの思い」などの言葉が見られ、それぞれ

の児童が自分なりの視点から生き物の存在を捉えていることがうかがえました。残りの 15 人は教材の内容について記述していました。お母さんクジラと赤ちゃんクジラの関係性からお話のよさを述べる児童が多くいたことから、役割演技を通して体験的に考えたことで、その時感じた気持ちが実感として児童の心の中に残っていることがうかがえました。

(イ) 中学 2 年生の分析

①「道徳上の問題について、これまでの自己と照らしての判断とその基になる根拠を考え、記述している」については、ワークシートで分析しました。道徳的実践へつなげようとしていることが読み取れる内容について記述していた生徒の割合は図 2 のとおりです。

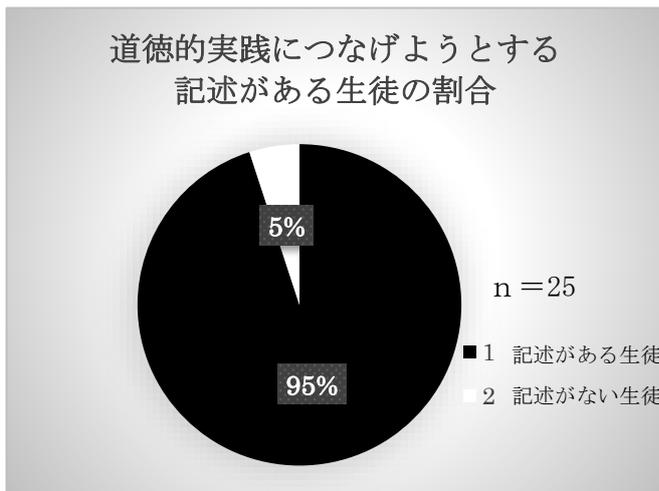


図 2 道徳的実践につなげようとする記述がある生徒の割合

- ・役割なんか気にせず、クラスのためや自分のために一生懸命に頑張ったら、やる気が出てきて、そうしたらクラスみんなで協力できるようになって、よいと分かった。クラスで、何か一つの目標を決めてみんなでそれに向かって協力していくことが大切だと改めて思った。

資料 7 生徒 O のワークシートより

- ・私は今日の授業が始まる前まで、「リーダー」の成長の方がフォロワーより何倍もあると思っていました。しかし、授業が進むにつれて考え方が変わり、「リーダー」が成長するのは「フォロワー」がいるからで、「フォロワー」が成長できるのは、「リーダー」がいるからなんだと思いました。どんなに「リーダー」が頑張ってもクラスは成長しません。なので、私は皆が協力し、努力とやる気であふれるクラスになりたいと思いました。

資料 8 生徒 P のワークシートより

下線部は意見の変容や道徳的実践につなげようとすることを記述している箇所

資料 7 と資料 8 のように授業のはじめの考えと授業の最後の考えでは、考え方が変わったという生徒の記述がありました。自分自身の考えの大切さを「改めて大切だと思った」という形で強化したり、授業の内容を基に、リーダーとフォロワーは相互に協力することによって自分もクラスも成長するという新しい気付きをしたりする生徒がいました。また、今後の学校生活に考えを深めたり、更に学級への思いを強くしたりするなど道徳的実践につなげようとする記述をした生徒が全体の 95% いるなど、多くの生徒が生き方についての自己理解を深めることができました。

②「主題に係る自己の（人間としての）生き方を振り返り、今後の生活に生かせる記述をしている」について事後アンケートで以下のように分析しました。

資料 9 は、授業の 1 か月後に生徒が記述したものです。

- ・最初は私たちのクラスもそんな感じ（教材文のクラス）でした。やる気がなかったり、恥ずかしくて歌わない人がいました。でも、この道徳をした後から少しずつ、みんなが声を出して、合唱コンクールでは、銅賞をとることができました。本当にいい思い出になりました。
- ・自分は歌を歌うことが苦手で、練習にも身が入らなかったけど、授業を受けた後の合唱コンクールでは大きな声で精一杯歌うことができた。金賞まではいかなかったけど、この話にあったような達成感を味わうことができた。
- ・今年は指揮者をさせてもらいました。私は本番感動しました。いつも以上に声を出してくれる人が多く、ここまで頑張ってきてよかったなと思いました。「僕」のような思いをしてくれている人が何人いるのか分からないけど、歌っているときはみんなの心が一つになったと思います。
- ・私は、アルトパートリーダーをしていました。音程があわず、ソプラノにつられたり、男声につられたりする人もいました。声を出さない人もいたので、この教材のように私も大きな声で歌う人が増えてきました。本番では練習よりもいい声で歌う人が増えてきました。本番では練習よりもいい声で歌うことができ、「銅賞」をとることができました。私はだれかがやってくれると思っていたのが、みんなでいい合唱をするというように全員の意識が変わってくれたからいい合唱をすることができたのではと思いました。
- ・やる気のない「僕」が大きな声を出し、達成感を味わえたのは自分自身も同じだったと思う。来年も作中の「僕」のように賞が取れなくても満足いく合唱コンクールにしようと思った。
- ・合唱コンクールでは最初は嫌だったけど、みんな協力すれば、大きな声になることが分かりました。みんなが大きな声を出したから銅賞がとれたと思いました。それに達成感を味わうことができたと思います。みんな協力して一つのことをやるのはとてもやりがいがあると思いました。
- ・最初は全然まとまらなかったけど、「一人がみんなのために、みんなは一人のために」と思って頑張ると本番はいつも以上に声のでて、銅賞になれたのでよかったです。
- ・私たちのクラスも最初は皆やる気がなく、声も小さいし、バラバラだった。でもパートリーダーさんが声を掛けてくれたおかげで皆のやる気もでて、「銅賞」をとることができた。

（下線部…主題に係る自己の（人間としての）生き方を振り返り、今後の生活に生かせる記述をしている箇所）

資料 9 授業 1 か月後の生徒の記述

上記のように、授業を通じて、多くの生徒が学級での活動に対して前向きな記述を書くなど、道徳的価値の深まりが見られ、道徳的実践につながっている姿をアンケートで見取ることができました。特に、実感をもって作中の登場人物に自分をなぞらえる姿や授業をきっかけに学級の一員として協力しようとする姿が見て取れました。道徳的実践につながるきっかけになったと思われる。